

学校におけるがん教育の考え方・進め方



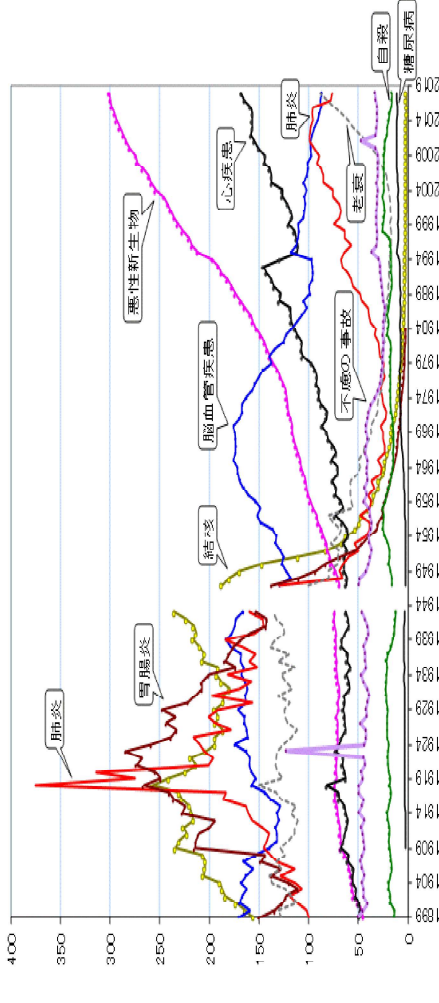
植田誠治（聖心女子大学現代教養学部教育学科）

なぜ今がん教育なのか？

- ・我が国において、がんは、1981年より死因の第1位である
- ・今日では約2人に1人が、がんに罹患すると推計されている

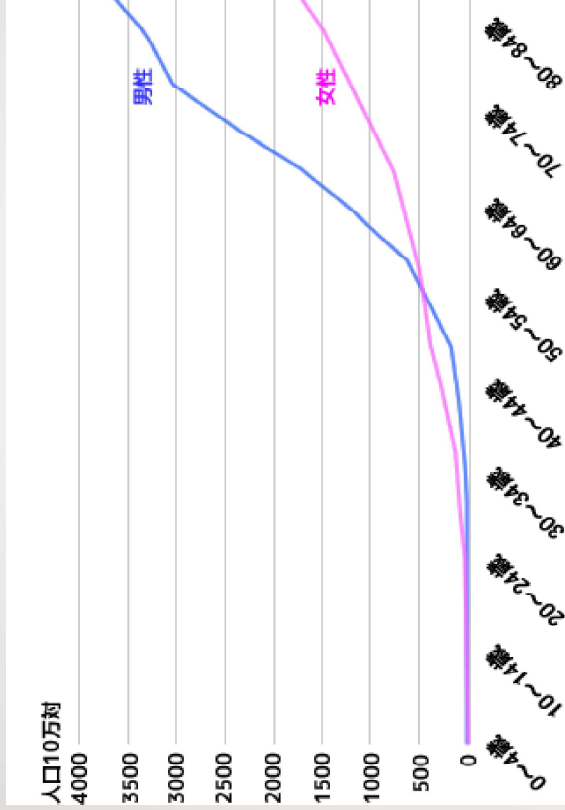
国立がん研究センター2023年データによる
男性61.1%（2人に1人）
女性50.1%（2人に1人）

主要死因別死亡率（人口10万人対）の長期推移（1989年～2018年）



（注）1984年の心疾患の減少は、新しい死亡診断書(死体検察書)(1985年1月1日施行)における「死亡の原因欄」には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの事前周知の影響による減少と推定される。2017年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10(2013年版)による「肺炎」の分類変更によるものと推定される。最新年は推定値。
（資料）厚生労働省「人口動態統計」

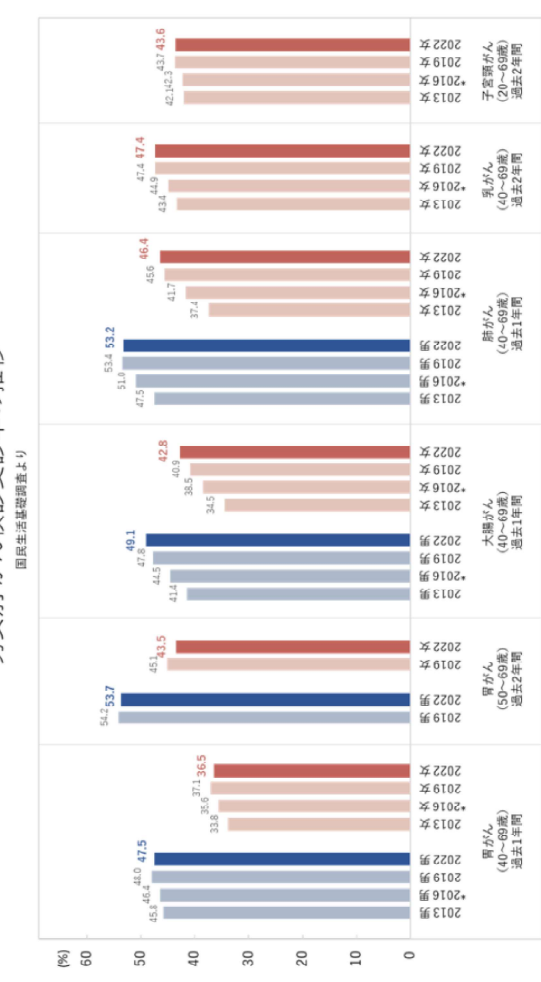
年齢階級別のがん発症率の変化（がん対策情報センターより）



年齢が高くなるほどがんになる確率が高くなることがわかっている。日本では年齢の高い人が増えていることにより、がんに罹患する可能性が高くなってきている。

・がん検診率の低さが指摘されている

男女別 がん検診受診率の推移



※20～49歳の子宮頸がん検診受診率を比較

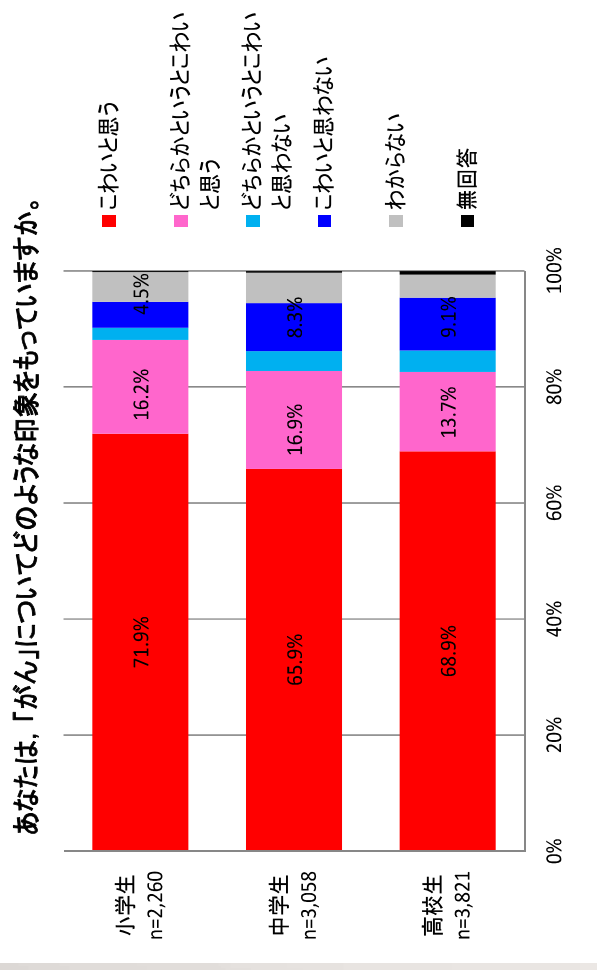
(内閣府、2012)

多くの人のがん検診を受けないのはなぜだと思うか

- 「受ける時間がないから」・・・47.4%
 - 「がんであると分かるのが怖いから」・・・36.2%
 - 「費用がかかり経済的にも負担になるから」
・・・35.4%
 - 「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」
・・・34.5%
- (複数回答, 上位4項目)

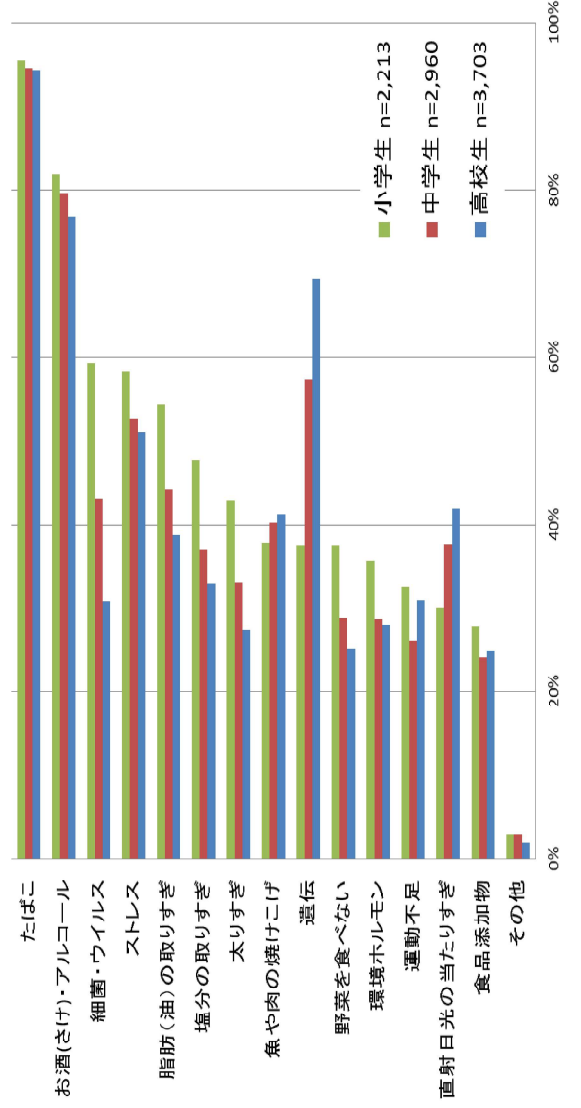
がんに対する意識 (内閣府、2016)

「こわいと思う」とする者の割合・・・72.3%
(「どちらかといえばこわいと思う」29.9%+「こわいと思う」42.4%)



- 小学生・中学生・高校生のがんに対する意識 (こわいと思う・どちらかといえばこわいと思う) は80%以上
がんに対する意識 (内閣府、2016)
「こわいと思う」とする者の割合・・・72.3%
(「どちらかといえばこわいと思う」29.9%+「こわいと思う」42.4%)

「がん」はどのような原因でなと思いますか。(複数選択可)



(Ueda et.al, 2014)

- がんの原因についての知識は、たばこについては高いが、細菌・ウイルス（特に高校生で）、食事、運動不足などについては低い
- また、こういったことががん患者に対する誤解や偏見につながっているとの指摘もある

がん対策推進基本計画（第2期）

2012年6月閣議決定

「子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自ら健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育することを目指し、5年以内に、学校での教育のあり方を含め、健康教育全体の中でがん教育をどのようにするべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする。」

○「がん教育」に関する政府と文部科学省のスケジュール(案)

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
がん対策推進基本計画（平成24年6月策定）【平成24年度～平成28年度までの5年間】 ○がんの教育・普及啓発 5年以内に、学校での教育の在り方を含め、健康教育全体の中で「がん教育」をどのようにつなぐべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする				
政府成長戦略での「がん教育」の位置付け				
「がんの教育に関する検討委員会」 日本学校保健会主催 （文部科学省補助金） ○有識者からなる検討会を設置し学校における「がん教育」の在り方について検討				
「がん教育」の在り方に関する検討会 文部科学省主催 ○1年目 ・「がん教育」の基本方針について検討 ※ブレームワークの検討 ○2年目 ・「がん教育」に必要な数値等の開発 ・外部人材の活用方法等について検討 ○3年目 ・「がん教育」に必要な数値等の修正 ・外部人材の活用方法等について検討 ・報告書の作成 ※「がん教育」推進のための準備期間				
○モデル事業の実施 期待される成果 ・教育委員会等によるがんの教育用教材の作成 ・専門医等の講師派遣 ○1年目 希望地域において、事業を実施。 ○2年目 ※基本方針を基に1年目の実施地域を中心に、地域を絞って実施。 ○3年目 事業の課題の改善・数値等を活用して実施。				
学習指導要領改訂の必要性について検討				
政 府				
文 部 科 学 省				

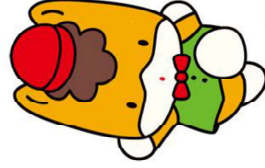
文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会配布資料より

がん教育に関する政府と文部科学省のスケジュール

2029年度 平成29年度	2018年度 平成30年度	2019年度 令和元年度	2020年度 令和2年度	2021年度 令和3年度	2022年度 令和4年度
がん対策基本法（平成28年12月16日改正）※新たにがん教育について記載 第二十三条 国及び地方公共団体は、国是が、がんに関する知識及びがん患者に対する理解を深めることができるよう、学校教員及び社会教育員におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。					
第3期がん対策推進基本計画【2017年度～2022年度の6年間】 （平成29年10月24日閣議決定、平成30年3月9日一部変更） 【個別目標】 がん患者の生活の質の向上を図るための実施状況を把握した上で、地域の実情に基き、外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努める。					
がん教育の実施状況に関する全国調査					
◆ 新学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発 ○新学習指導要領を踏まえた教員や外部講師の質の向上。 ・教員、外部講師に対する実践的ながん教育研修会の実施 ○先進事例の全国への普及・啓発。 ・先進事例の紹介等を行うがん教育シンポジウムの開催 ◆ 地域の実情に応じたがん教育の実施 ○新学習指導要領及びそれぞれの地域の実情に応じたがん教育の取組を支援。 ・がん教育担当支援事業【委託事業】 ・教育委員等会によるがん教育に関する教材の作成・配布 ・学校医、がん専門医、がん経験者等の外部講師によるがん教育の実施 ・外部講師名簿作成等、活用体制の整備（2019年度～）					
学習指導要領改訂関係 実行事項 周知・徹底 先行実施 全面実施（2021年度～） 先行実施 先行実施 全面実施（2024年度～）					
【委託事業】 ・教育委員会等によるがん教育教材の作成 ・専門医等の講義 ・教職員用研修会の開催 など					
小学校 中学校 高等学校 周知・徹底 先行実施 先行実施 全面実施（2021年度～） 先行実施 先行実施 全面実施（2024年度～）					
文部科学省					

文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会配布資料を一部改変

がん教育の手引き



©群馬県 くんまちゃん

群馬県教育委員会
監修：群馬県がん教育に関する協議会

(令和4年3月)
(令和8年2月一部改訂)

学校におけるがん教育の目標

文部科学省「学校におけるがん教育の在り方について」、2015より

①がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

黒澤明「生きる」



小児がんの子どもたちへの教師の理解や友達の励ましが大きな支えになる一方で、不用意な言葉や態度がいじめや差別にもつながる（中川原 章）

がんの疾病概念、予防方法、検診の意義を正しく理解し、がんを予防する能力や態度を高め、がんに対するいたずらな不安や偏見を払拭する。

また、人間尊重の精神（やソーシャルインクルージョンの考え方）に基づき、がんやがん向き合う人々について学ぶことによって、自他の健康といのちの大切さを知り、自己のあり方や生き方を考える態度を育成する。（植田、2016）

学校におけるがん教育の内容

文部科学省「学校におけるがん教育の在り方について」、2015 より

- 1) がんとは（がんの要因等）
- 2) がんの種類とその経過
- 3) 我が国のがんの状況
- 4) がんの予防
- 5) がんの早期発見・がん検診
- 6) がんの治療法
- 7) がん治療における緩和ケア
- 8) がん患者の生活の質
- 9) がん患者への理解と共生

指導者・教育課程の時間と「がん教育」の内容

（植田、2016）

- 1) がんとは（がんの要因等）
- 2) がんの種類とその経過等
- 3) 我が国のがんの状況
- 4) がんの予防
- 5) がんの早期発見・がん検診

1) ～5) まず教師が保健教育の時間での充実を図る

- 6) がんの治療法（手術、放射線、抗がん剤）
- 7) がん治療における緩和ケア

6) ～7) 基本的な内容については、教師が保健教育（中高）

で行うことを検討し、その実際や最新情報などは特別活動で医療関係者などの外部講師を積極的に活用

- 8) がん患者の生活の質
- 9) がん患者への理解と共生

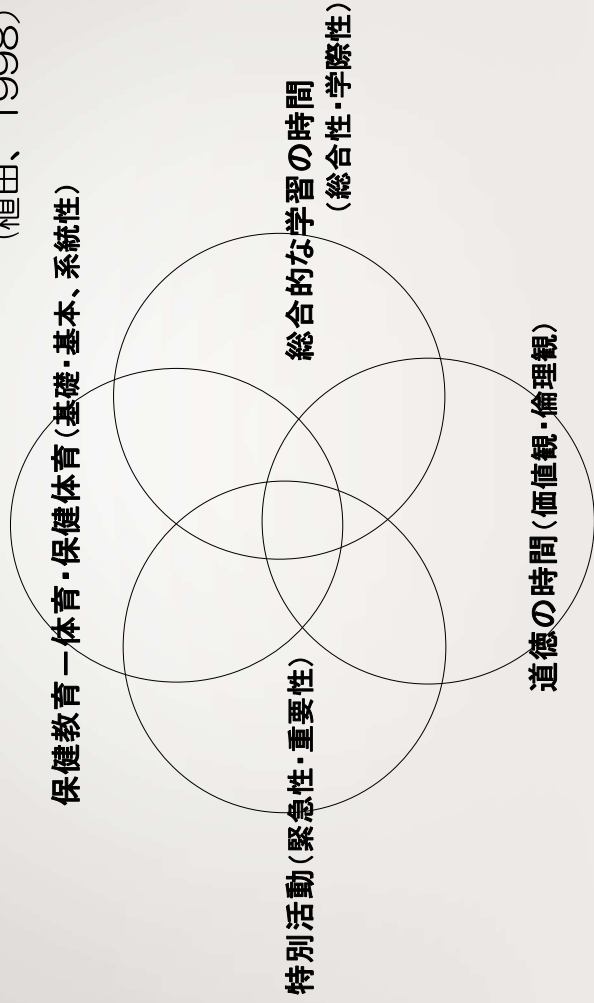
8) ～9) 高校では保健教育の一部を教師が行い、小中では

道徳の時間、また小学校から高校までの特別活動で、教師に加え、医療関係者やがん経験者などの外部講師を積極的に活用

学校健康教育における連携・特徴

(植田、1998)

保健教育－体育・保健体育(基礎・基本、系統性)



外部講師を活用した授業例

「がん教育の手引き 別冊 ～外部講師を積極的に活用したがん教育～」
(2021年長野県教育委員会:手引き作成アドバイザー植田誠治)より

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/hoken/hoken/gankyoiokutebiki.html>

(小学校)

4 授業の計画 (3時間扱い)

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師<評価>等
体育 (1時間)	〔第3学年及び第4学年〕内容(2)体の発育・発達 (イ)体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることを理解する。 ＜ねらい＞ 体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠が必要であることを理解する。	学級単位 (教科担任) ＜知識＞ 観察・学習カード
道徳 (1時間)	〔第3学年及び第4学年〕 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 【(18) 生命の尊さ】 教材「電池が切れるまで」 ＜ねらい＞ 教科書教材を用いて、生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすることについて考える。	学級単位 がん教育の手引き P20～P27 参照
特別活動 (1時間) 本時	学級活動 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 ＜ねらい＞ がん経験者の方のお話をもとに、「命の大切さ」や「健康を守るためにしていきたいこと」を考え合うことを通して、自分の健康を保持増進しようとする気持ちをもつとともに、今の自分にできることを考え、実践する態度を育てる。	学級単位 外部講師:がん経験者 ＜思考・判断・表現＞ 観察・学習カード

児童が主体的に自分の健康づくりを考えていくために養護教諭が行っている保健指導に加え、このように保健や道徳、特別活動をはじめとした教科等横断的な取組も考えられます。

5 講師と事前打ち合わせのポイント

- ・ 前時と本時の主な授業の流れや授業概要を伝える。
※講師を依頼した理由や学校におけるがん教育の取組の状況なども含めて
- ・ 役割分担について決めておく（下写真参照）。
- ・ 事前アンケートをとっていただければ、その概要などを簡潔に伝える。また、配慮しなければならぬ児童がいれば、事前に担当（担任、養護教諭等）から講師へ伝える。
- ・ 児童の質問がある場合はあらかじめまとめて伝える。

講師が見ていない前時の流れを丁寧に丁寧に伝えてほしい

前時は「命の大切さ」を改めて自覚する、「命を大切にしたい」という思いをもつことをねらいとして学び、本時の「健康の保持増進のために努力しよう」という気持ちをもつことにつなげていくという意図を外部講師に伝える。



がん教育の手引き
P20～P27 参照

前時と本時の主な内容

- ◎前時について：道徳の時間に「電池が切れるまで」を使って学習
＜ねらい＞ 命ある限り精一杯生きようとする宮越由貴奈さんの姿を通して、生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすることを育てる。
- ◎本時について：特別活動 学級活動（2）
＜ねらい＞ 小口さんの経験談や「健康を守るためにしていきたいこと」をグループで話し合ったことをもとに、「自分はどうしていきたいか」を考えることを通して、自分の健康を保持増進のため自分に合った解決方法を決める。

役割分担
担任は、外部講師の話を聞きながら、ねらいに沿った大事な部分を板書する。

外部講師と授業をつくる
担任→外部講師の話をまとめる
外部講師→スケッチブックで説明



授業のねらいに沿って、どのような外部講師を活用するか決めよう。
～外部講師の活用例～
＜導入＞
子どもの質問に答える
＜展開＞
ご自身の経験を語る
＜終末＞
子ども達へのメッセージ

4 授業の計画（4時間版）

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師＜評価＞等
保健体育 （2時間）	事前アンケート 健康な生活と疾患の予防 （ウ）生活習慣病などの予防 ＜ねらい＞ がんは、生活習慣の予防と同様に、適切な生活習慣を身につけることや早期発見するためにがん検診などがあることを理解する。	学級単位（教科担任） ※養護教諭との連携
特別活動 （1時間）	学級活動（2）日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 （エ）心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 ＜ねらい＞ がんの予防や生活習慣とのつながりについて理解し、がんについて一方的に話を聞くのではなく、がんを自分事として考えるために専門家に疑問に感じていることやさらに知りたいことを意欲的に質問したり、自分の考えを書いたりしている。	3学年全員 教科担任 外部講師 （医師、看護師、薬剤師） ＜知識＞ 観察・学習カード
本時		
道徳 （1時間）	D「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」 【19 生命の尊さ】 ＜ねらい＞ 外部講師（専門家）とのやりとりを通して、自他の命を尊重すると共に健康に生きることへの意欲を高める。	学級単位（教科担任）

（中学校）



竹内 信道さん
伊那中央病院 腫瘍内科 医師
地域がん診療連携拠点病院のがん専門医として地域の中学校からの依頼を受け、がんの治療に携わる薬剤師・看護師の皆さんと共に、生徒からの質問に直接答え、がんの予防や生活習慣とのつながりについて伝えた。

5 講師と事前打ち合わせのポイント

- ・ 事前アンケートの結果を医師に送り、生徒の実態把握をした上で打ち合わせをする。
- ・ 学校側が伝えたいこと、病院側が伝えたいことを共通理解した上で計画を立てる。
※中学生の場合は科学的な根拠を基に理解できるようにする。
- ・ 学年単位で、複数の外部講師が授業にかかわるので、質問の形式や時間配分等について共通理解しておく。
- ・ 生徒が「何を知らないのか」、「何を聴きたいのか」という目的意識をもってグループ活動ができるようにする。質問の形式や時間配分も確認しておく。
- ・ がん教育を通して願う子どもたちの学びの姿として「いのちの学習」計画案（次のページ図参照）を共有しておく。また、学校保健計画、健康教育年間計画及びそれに準ずる計画等あれば、参考資料として渡しておく。
- ・ 最も重要なのは学校の都合でゲストティーチャー的な役割を依頼するのではなく、共に授業を創りあげていくといった学校側の姿勢である。

(高等学校その1)

4 授業の計画（2年次10時間扱い）			講師＜評価＞ 等
教科等		学習指導要領に基づいた学習内容	学級単位（教科担任）
1年次 保健体育 （2時間）		（1）現代社会と健康 （イ）生活習慣病などの予防と回復 ＜ねらい＞ 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解する。	＜知識＞ 学習カード
2年次 特別活動 ホームルーム活動 （1時間）		ホームルーム活動（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 ＜ねらい＞ 節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康の保持増進を図ることを理解する。	学校単位 外部講師による保健講話 ・事前アンケートにより、生徒の実態や学校の対応（配慮点）について伝えておく（義理教諭とめ）
保健体育 （9時間）		（3）生涯を通じる健康 イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 ＜ねらい＞ 外部講師の保健講話や保健の授業で学んだことを生かし、生涯を通じて健康課題、医療制度など探求的な学びの中で「がん」をキーワードとして取り上げ、将来予想される立場から自らの問いに対して考え、解決方法を考えることができる。	学級単位（教科担任） ＜思考・判断・表現＞ 学習カード・プレゼンツール
本時 9時間扱い中 第2時		例えば、「実体験 現在の気持ち」「がんなどのように向き合うか」「今後必要となる技能習得」 ※第2時における内容やねらいです。	



小泉 知展さん

信州大学医学部包括がん治療学 教授

大学の医学部で、がん専門の若手医師の育成や診療・研究活動を行うかたわら、長野県がん教育推進会議のアドヴァイザーや県内の学校での講演活動等、がん教育の普及に努めている。

今回は、生徒の進路指導の内容も含めて講演を行った。

4 授業の計画（2時間扱い） ※外部講師が関わった授業の計画です。

教科等		学習指導要領に基づいた学習内容	講師＜評価＞ 等
保健体育 （1時間）		【高等学校学習指導要領】 （4）健康を支える環境づくり ア 健康を支える環境づくりについて理解を深めること （イ）健康に関する環境づくりと社会参加 ＜ねらい＞ 自己の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であることについて理解できる。	学級単位（教科担任） 外部講師と 看護師、義理師
保健体育 （1時間）		・常規先生からがんが発生する仕組み、がんの予防、検診、治療等の話を聞く。 ・ケーススタディ「がん患者と歩む」 ＜ねらい＞ がん患者の治療中、治療後の「生活の質」を大切にすることをもち、ディスカッションを通して、健康に勝る環境づくりやせりやしく生きるために何が必要か、自分や家族、ケースの対象者の視点に立て考えることができる。	学級単位 外部講師と 看護師、義理師
本時			＜思考・判断・表現＞ 観察・学習カード



豊畑 雄一さん

がん専門医

佐久総合病院佐久医療センター 腫瘍内科医師
地域がん診療連携拠点病院のがん専門医であり、がん教育外部講師としても活動をしている。

今回は、がんの発生の仕組みや予防・検診等の講義やケースの対象者の視点で考えるグループワークで助言をした。

＜授業の感想＞

- ・絶対にがんにならない方法はないけれど、がんになりにくくすることはできることが分かりました。その方法は、ただにもできることだったので、まずは家族に教えて、どんな情報を上げていき、がんになる人、がんによって亡くなる人を減らしていけたらいいなと思いました。グループの話し合いでは、もし家族ががんになったら、自分は治療を受けてほしいと思うけど、がんになった人の思いを尊重しなければいけないと思いました。
- ・がんは怖い病気だということは聞いて、2分の1の確率でがんになる人がいるということを知って、びっくりしました。治療や検査は、早い方が絶対いいと思うけど、本人の意思も大切にしないといけないと思いました。今日のグループワークで、私は早く治療することが一番だと思っていましたが、友達達の意見を聞いて本人の意思を大切にしようということを言っていて、確かに納得することがありました。今日の授業のことをこれから意思決定に役立てていきたいです。
- ・グループワークで、「病院に行かせる」、「Tさんの意見を尊重する」など、全然違う意見がいろいろ出たり、自分では考えもしなかった意見が出たりして楽しかった。来てくれた先生が言ったとおり、自分たちが正しい情報を広めて、地域などのがんに対する思いが活性化すれば、少しはがんになる人が減ると思うし、そうなればうれしい。

5 講師と事前打ち合わせのポイント



- ・生徒の実態、事前アンケートから分かるがんについての認識を外部講師と情報共有する。
- ・授業で考えたことを生活につなげていけるようにしたいという学校のニーズを伝える。
- ・高校生から社会（地域や家族）に伝えられる活動は何か。どんなことができているかを考えてもらいたいという外部講師の思いや考えを聞く。

＜ケーススタディ「がん患者と歩む」の確認＞

4つのケースの中から自分の指定されたケースについて、色々な視点（人、もの、タイミングなど）から考えられるように促す。

＜グループディスカッションの進め方の確認＞

- ① グループであらかじめ司会者、書記、発表者を決める。
- ② それぞれ専門学習でできたことを基にディスカッションを行う。
- ③ グループ内の意見を付箋に記入し、模造紙に貼ってまとめる。
- ④ 発表する。

がんに対するこわさの払拭

ー「いたずらにこわがる」から「正しくこわがる」へ
そして、そのための基礎的・基本的理解をー

- ・がんについての印象で、こわいあるいはどちらかといえばこわいと回答した割合は、小学生・中学生・高校生とも8割を超えており、このうちこわいと回答した者は約7割
- ・その一方で、がんの原因について、たばこを回答する者は極めて高いものの、食事、運動不足、細菌・ウイルスなどについては、高校生でも3～4割程度

がんについての（保健的な）基礎的・基本的理解

参考）エイズ教育の教訓



5～6 ページ

5 学習指導要領における位置付け

～学習指導要領解説における「がん」に関する記述部分～

【小学校 第6学年 小学校学習指導要領解説抜粋 教科：第9節 体育】

(3) 病気の予防

【解説】

(ウ) 生活行動が主な要因となつて起こる病気の予防

生活行動が主な要因となつて起こる病気として、心臓や肺の血管が硬くなったり、つまったりする病気、むし歯や歯ぐきの病気を通称取り上げ、(略)健康によい生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

⑦ 喫煙については、(略)受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。また、喫煙を長い間続けるとうがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

【中学校 第2学年 中学校学習指導要領解説抜粋 教科：第7節 保健体育】

(1) 健康な生活と疾病の予防

【解説】

(ウ) 生活習慣病などの予防

⑦ 生活習慣病の予防

適切な生活行動を若い年代から続けることによって、やせや肥満などを引き起こしたり、また、心臓や肺などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解できるようにする。

生活習慣病を予防するには、適度な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることを理解できるようにする。

④ がんの予防

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

なお、⑦、④の内容と関連させて、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見することなどを取り上げ、疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。

1) 文章の語尾に注目…基本的
内容（理解できるようにする）

とそれ以外の触れる内容

2) 小学校・中学校・高校の

系統性

3) 生活習慣病などの「など」に

留意

4) 内容の取扱い（中学校・高校）

「また、がんについても取り扱うものとする。」に留意

(1) 現代社会と健康

【解説】

ア 現代社会と健康について理解を深めること

(イ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜ふれるようにする。

また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること。また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

がん教育におけるカリキュラム・マネジメント

特別活動

自己の成長及び健康安全・・・現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや望ましい食習慣の形成

特別の教科 道徳

生命の尊さ・・・生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえない生命を尊重すること

総合的な学習の時間

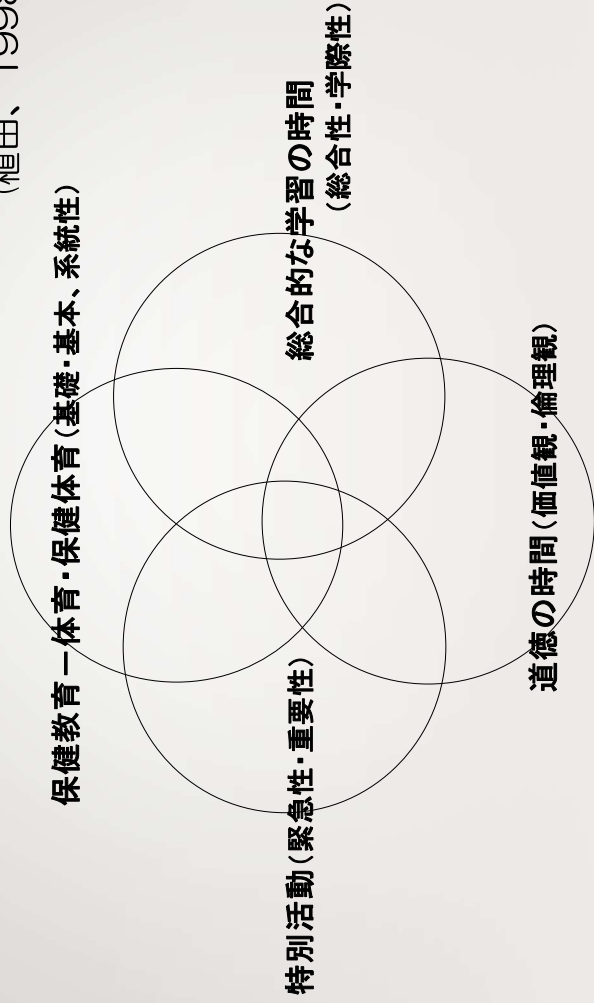
探究課題の例・・・福祉・健康

カリキュラム・マネジメントしていく必要性

学校健康教育における連携・特徴

(植田、1998)

保健教育一体育・保健体育(基礎・基本、系統性)



中学校・高等学校版

がん教育プログラム

補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、

がんについての正しい理解と、

がん患者やその家族などのがんと向き合う人々に対する

共感的な理解を深めることを通じて、

自他の理解と命の大切さについて学び、

共に生きる社会づくりに寄与する教員・能力の育成を

図ることを目的としています。

本教材を活用するにあたっての留意事項

巻についての留意になります。巻末の家庭学習や課題についての記述があります。
本書P. 6の留意事項を、必ずご確認ください。

平成29年3月

株式会社キャリアリンク
(文部科学省委託事業)

令和3年3月改訂

https://www.mext.go.jp/content/20210310-mxt_kenshoku-100000621_2.pdf

本プログラム作成にあたっては、作成委員会を設置し、アドバイスおよび監修いただきました。

作成委員会メンバー一覧(五十音順)

植田 誠治氏 (聖心女子大学 文学部教育学科教授)

塚崎 好起氏 (岡山県教育庁 保健体育課 健康・安全教育班 指導主事)

中川 恵一氏 (東京大学医学部付属病院 放射線治療部門長)

林 和彦氏 (東京女子医科大学 がんセンター長 化学療法・緩和ケア科教授)

広野 光子氏 (がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会 (自助努力の患者会) 代表、ジャーナリスト)

提供教材

全9モジュール分の教材を用意しています。学校での授業のねらいに合わせて自由にアレンジしてご活用ください。

スライド教材



補助教材



映像教材（小学生向け）



全9モジュール分のスライド
を用意しています。

各モジュールのねらい・授業進行の方法などを紹介しています。

小学生向けには映像教材を確めています。
必要に応じて活用ください。(詳細P.18)

プロダクト・開発

本プログラムの文部科学省「がん教育推進のための教材」にもとづき、9つのモジュールにて学習いただける内容となっています。また、中学校・高等学校で活用いたされやすいよう、1モジュール15分程度で構成。各校のねらいに合わせ、各授業モジュールを習得し、総合的な学習で活用ください。

※プロダクトは販売が滞りつつありますが、学校の実情に合わせ、学校医やかんの専門医、かん患部など、外観と体の健康は、はげにより実情が異なります。(P.4を参照ください)

小学校・中学校 中津校・富田分校
中学校 伊賀市立中津中学校、伊賀市立富田中学校 など

いずれのモデルも15分程度で実施いただけます。

モジュールタイトル	概要	ページ
1 がんという病気	がんとは体の中で異常細胞が増え続ける病気である。がんは一種遺伝病であるが、防がん対策により発生の危険性を減らす。がんになる危険性をどのように生活で減らすかを考える。	P.7
2 日本のがんの現状	がんは日本人の死因の第1位で、2人に1人はがんになる可能性がある。がんは細胞分裂の際に発生していくため、年齢とともにがんになる人が増え、遅くても死に至る病気である。	P.8
3 がんの発生と進行	がんは発生から自覚症状が出るまでの期間が長い。早期に発見するためには、症状がなくても検診を受けることが重要である。	P.9
4 がんの予防	がんになる危険性を減らすための工夫としては、たばこを吸わない、食の人のたばこの煙を吸わない、パランスのとれた食事や適度な運動、定期的ながん検診が重要である。	P.10

4	がんの予防	がんになる危険性を減らすための工夫としては、たばこを吸わない、ほかの人のたばこの煙を避ける、バランスのとれた食事や適度な運動、定期的にがん検診が重要である。	P.10
5	検診の現状	がんになった場合、早期がんに関しては約95%が治る。早期に発見するためには、 <u>症状がなくても定期的に検診を受けることが重要である。</u>	P.11
6	がんの治療で大切なこと	がん治療には3つの柱（手術、放射線、化学）があり、がんの種類と進行度に応じて手術や、組み合わせで行われているが、 <u>医師と相談しながら主体的に選択することが重要である。</u>	P.12
7	がん治療の支援	がんの支援には、病院に伴う様々な痛みや心身の痛みを和らげる緩和ケアがあり、 <u>経済的だけでなく、がんと診断された時から受けられるものである。</u>	P.13
8	がん患者の暮らし	がんの支援は、単に病院を出ただけでなく、治療中、治療後の「生活の質」を大切にし、 <u>がんになってもその人らしく、質の高い生活を営むことができる</u> ことが重要である。	P.14
9	がん患者とともに生きる社会	がん患者は増加しているが、生活が豊かになり、治る人、社会に復帰する人、病気を克服しながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちが社会生活を行っていく中で、 <u>がん患者への偏見をなくし、お互いに関心を持ち、共に暮らししていくことが大切である。</u>	P.15



学校保健の情報が集約された
ポータルサイトはこちら

学校保健

研修会案内 | 日本学校保健会刊行物(デジタル・アナログ) | 学校等次年度・年度位置情報システム | 研修 | コラム | イベントカレンダー | テーマ別関連ページ



研修会案内 | 研修会や講習会、セミナー等のご案内

オンライン配信 | 書籍・雑誌向け
オンライン配信 | オンライン配信

テーマ別関連ページ
最新情報

研修会案内 | テーマ別関連ページ
最新情報

教材コンテンツ

研修会案内 | 教材コンテンツ | イベントカレンダー | テーマ別関連ページ

ホーム > 学校で使える保健コンテンツ

学校で使える保健コンテンツ

- ▶ [授業づくりに活かせるコンテンツ](#)
- ▶ [そのまま授業で使えるコンテンツ](#)
- ▶ [養護教諭が使えるコンテンツ](#)
- ▶ [学校配布用コンテンツ](#)
- ▶ [協力企業による提供コンテンツ](#)

▶ 授業づくりに活かせるコンテンツ

「[主体的・対話的で深い学び](#)」の実現に向けた保健の授業（児童生徒の健康管理・健康づくり推進動画）

学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保健教育の授業の進め方の理解促進、指導者育成のためのモデル授業動画を配信しています。

▶ [コンテンツはこちら](#)

学校等欠席者・感染症情報システム
マップビュー

テーマ別関連ページ

■ 保健管理

- ▶ 感染症
- ▶ アレルギー疾患
- ▶ 心臓・腎臓・呼吸器など
- ▶ 歯・口（歯科保健）

- ▶ 眼
- ▶ 耳・鼻・のど
- ▶ 皮膚
- ▶ 骨・関節（運動器）

- ▶ 性
- ▶ メンタルヘルス（精神保健）
- ▶ 学校環境衛生
- ▶ 成長発達
- ▶ その他

■ 保健教育

- ▶ 保健教育
- ▶ 歯・口の健康教育
- ▶ 食育

公益財団法人 日本学校保健会 「児童生徒の健康管理・健康づくり推進」委員会

ホーム > 児童生徒の健康管理・健康づくり推進動画

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保健教育の授業

児童生徒の健康管理・健康づくり推進動画

令和3年度動画

令和4年度動画

令和5年度動画

令和6年度動画

令和7年度動画

NEW

* 内容別で検索する方はこちらから

保健（小・中・高）

特別活動（小・中）

令和5年度動画（敬称略）

I 学習指導要領に基づく保健教育の授業づくり

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 健康教育調査官
スポーツ庁政策課 教科調査官 横嶋 剛

II 実践授業

1. 特別活動（学級活動）(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

題材「心の健康」

小学校第6学年 浦添市立仲西小学校 根間 成美

2. 「健康な生活と疾病の予防」(ウ) 生活習慣病などの予防（がん）

中学校第2学年 松山市立久米中学校（授業協力校）愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 大野 小百合

3. 特別活動（学級活動）(2) ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的発達への対応

題材「性情報への対応」

中学校第2学年 川崎市立橋中学校 網谷 英大

4. 「現代社会と健康」(イ) 現代の感染症とその予防

高等学校第1学年 大分県立大分雄城台高等学校 釘宮 多加也

中学校 保健体育科（保健分野）
単元名 「生活習慣病などの予防（がん）」（第2学年）

1 単元の目標

- (1) 生活習慣病の予防及びがんの予防について理解できるようにする。
- (2) 生活習慣病などの予防に関わる事象や情報から課題を抽出し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝えることができるようにする。
- (3) 生活習慣病などの予防について、自己の健康の低増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようになる。

2 単元の評価目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生活習慣病は、日常生活習慣が要因となっており、適切な予防法を選択することにより、予防できることと、生活習慣病を予防するには、適切な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを定めること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔衛生を保つことなど、適切な生活習慣を身に付けることが重要であることを理解し、適切な行動をとることができ、実践している。	②生活習慣病の予防に関わる事象や情報から課題を抽出し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝えることができるようにする。	③生活習慣病の予防に関わる事象や情報から課題を抽出し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝えることができるようにする。

3 評価と評価の計画（4時間単元）

主な学習内容・学習活動	知 恵 能	評価方法
①生活習慣病は、日常生活習慣が要因となっており、適切な予防法を選択することにより、予防できることと、生活習慣病を予防するには、適切な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを定めること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔衛生を保つことなど、適切な生活習慣を身に付けることが重要であることを理解し、適切な行動をとることができ、実践している。	①	観察 ワークシート
②生活習慣病の予防に関わる事象や情報から課題を抽出し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝えることができるようにする。	②	観察 ワークシート
③生活習慣病の予防に関わる事象や情報から課題を抽出し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝えることができるようにする。	③	観察 ワークシート
④がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることが有効であることについて理解する。	④	観察 ワークシート

※第4回の「知識・技能」については、ワークシートを用いて授業後ご評価することとした。
※主体的に学習に取り組む態度の評価については、内容を通じ観察することとした。

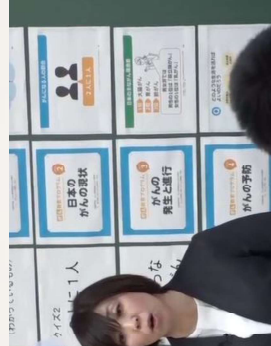
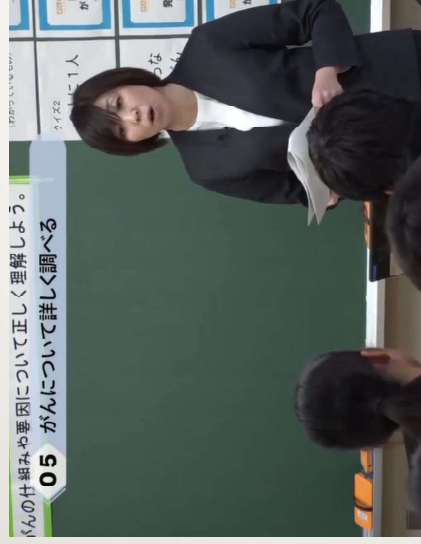
4 本時の指導案（3/4時間）

- (1) 本時の目標
○がんに関する基本的な知識について理解することができるようになる。
- (2) 展開

段階	学習内容と学習活動	学習形態	教師の指導・支援（●評価観点と方法）
導入	1 前時の復習を行う。 ・生活習慣病の要因と予防について振り返る。	全体	○生活習慣病の要因や予防と、日本人の死因について確認する。
	2 本時のねらいを確認する。 【学習課題】がんの仕組みや要因について正しく理解しよう。	全体	
展開	3 がんに対するイメージを共有する。 ・授業から、がんに対する自分のイメージを共有する。	個人	○現在のがんへのイメージを確認する。
	4 がんに関するクイズに挑戦する。 ・がんの仕組みを解説する。	全体	○がんに関する基本的な知識について理解できるようにする。 ・日本人の罹患の現状 ・日本人の死因について確認する。 ・生活習慣とがんの関係
	5 がん経験者の話を聞き、調べ学習への意欲を高める。	個人	○連絡打合会において話の中心となる内容を確認する。 ・関心のある話の整理
	6 がんについて詳しく調べる。	全体	○思いや考えを深め、調べ学習への意欲を高めることができるようにする。
まとめ	【まとめ】がんについて疑問に思ったことや、新しく知ったことをまとめてみよう。 ・クイズの中から、詳しく調べてみたい項目を選択する。 ・個人がタブレット端末を使って調べたことをワークシートにまとめる。 ・グループで質問し合い、調べた内容をまとめる。	個人 班	○がんについて関心をもち、がん経験者やがん患者の話を聞き、主体的に調べ学習の機会を主体的に学習に取り組み進める評価として評価する。
	7 本時の学習のまとめを発表する。	全体	●知識・技能②（学習活動6） 【観察】今日の授業を通して、考えが変化したことや分かったことをまとめてみよう。
	8 本時の振り返りを行う。	個人 全体	○がんに対する思考の変化に気付くことができるようにする。 ○がんを正しく理解することの大切さを伝える。
	・本時の振り返りを行う。	全体	○がんががんの予防と検診等について学習することを知らせる。

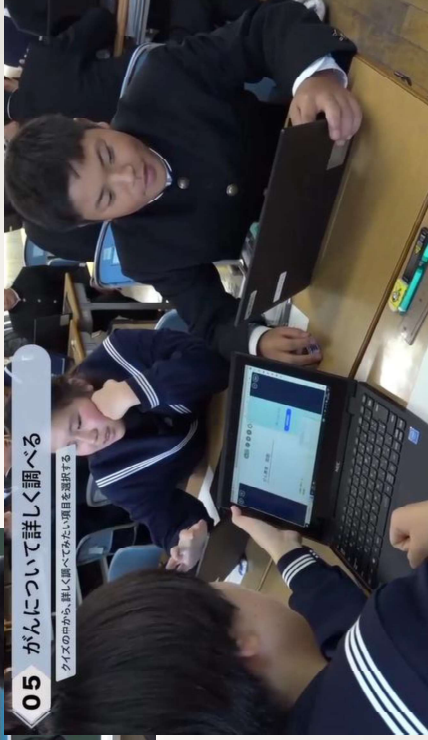
ぐんの仕組みや要因について正しく理解しよう。

05 がんについて詳しく調べる



05 がんについて詳しく調べる

クイズの中から、詳しく調べてみたい項目を選択する



05 がんについて詳しく調べる

がんについて詳しく調べる

がんとは、細胞が異常に増殖し、体の正常な機能を破壊する病気です。がんの原因は、遺伝的要因、環境要因、生活習慣などがあります。

がんの種類は、がんの種類によって異なります。がんの種類は、がんの種類によって異なります。

がんの種類は、がんの種類によって異なります。がんの種類は、がんの種類によって異なります。

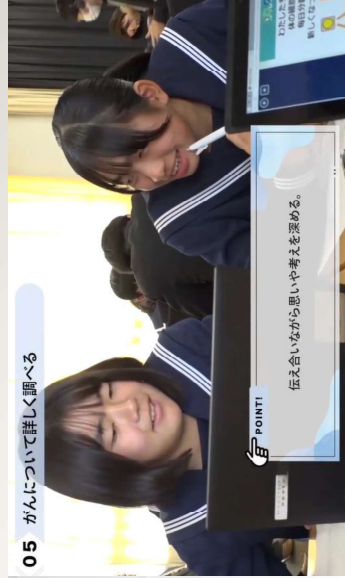
がんの種類は、がんの種類によって異なります。がんの種類は、がんの種類によって異なります。



POINT!

メモを取りながら仲間の発表を聞く。

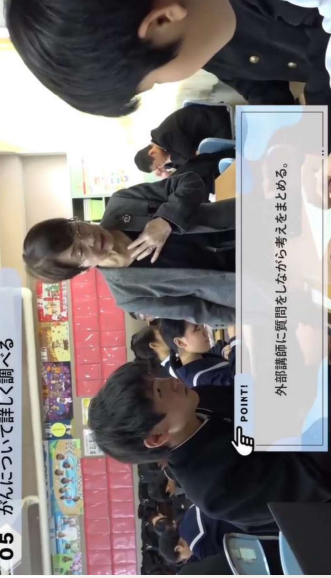
05 がんについて詳しく調べる



POINT!

伝え合いながら思いや考えを深める。

05 がんについて詳しく調べる



POINT!

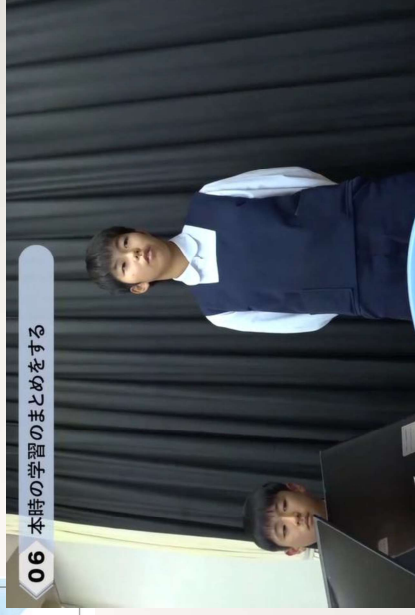
外部講師に質問をしながら考えをまとめる。

06 本時の学習のまとめをする



POINT!

授業を通して、考えが変化したことや分かったことをまとめる。



06 本時の学習のまとめをする

道徳教材「命を見つめて」

ねらい：

がん患者に対して肯定的な印象を持ち、公平、公正に接しようとする意欲を高める。

ねらいとする価値について：

がん患者の少女やその仲間の生き方や言葉に触れることで、がん患者についての印象を変え、がん患者と公平、公正に接しようとする意欲を高める。

命を見つめて

猿渡 瞳

写真・文章は
植田誠治編著

『学校におけるがん教育の考え方・進め方』（2018）より



みなさん、みなさんは本当の幸せて何だと思えますか。実は、幸せが私たちの一番身近にある事を病気になるたおかげで知ることができました。それは、地位でも、名誉でも、お金でもなく「今、生きている」という事なんです。

私は小学六年生の時に骨肉腫という骨のガンが発見され約一年半に及び闘病生活を送りました。この時医者に、病気に負ければ命がないと言われ、右足も太ももから切断しなければならないと厳しい宣告を受けました。初めは、とてもショックでしたが、必ず勝ってみせると決意し希望だけを胸に真っ向から病氣と闘って来ました。その結果、病氣に打ち勝ち右足も手術はしましたが残す事ができたのです。しかし、この闘病生活の間に一緒に病氣と闘ってきた十五人

の大切な仲間が次から次に亡くなっていききました。小さな赤ちゃんから、おじちゃんおばちゃんまで年齢も病氣も様々です。厳しい治療とあらゆる検査の連続で心も体もボロボロになりながら、私達は生き続ける為に必死に闘ってききました。しかし、あまりにも現実には厳しくみんな一瞬にして亡くなっていかれ生き続ける事がこれほど困難で、これ程偉大なものかという事を思い知らされました。

みんないつの日か、元気になっている自分を思い描きながらどんなに苦しくても目標に向かって明るく元氣にがんばっていました。それなのに生き続ける事が出来なくて、どれ程悔しかった事でしょう。私のはっきり感じたのは、病氣と闘っている人たちが誰よりも一番輝いていたという事です。そして健康な体で学校に通ったり、家族や友達とあたり前の様に毎日を過ごせるという事が、どれほど幸せな事かという事です。例えば、どんなに困難な壁にぶつかって悩んだり、苦しんだりしたとしても

命さえあれば必ず前に進んで行けるんです。生きてくても生きられなかったたたくさんの仲間が命をかけて教えてくれた大切なメッセージを、世界中の人々に伝えて行く事が私の使命だと思っ
ています。

✱
✱
✱
✱

みなさん、私達人間はいつどうなるかなんて誰にも分からないんです。だからこそ、一日一日がとても大切な事です。病氣になったおかげで生きていく上で一番大切な事を知る事が出来ました。今では心から病氣に感謝しています。私は自分の使命を果たす為、亡くなったみんなの分まで精一杯生きていきます。みなさんも、今生きている事に感謝して悔いのない人生を送って下さい。

*――骨肉腫は骨の悪性腫瘍（がん）で、若い人に多く、生活習慣などが原因のがんではない。

※本稿は、猿渡瞳さんの作文「命を見つめて」を一部抜粋して作成しました。



① がんってなんだろう？



がん検診をご存知でしょうか？そしてそのがん検診はどんな人が受けていると思いますか？

がんは現代日本においては非常に身近な病気であり、一人ひとりががんに対して正しい知識を持ち、対峙していくことが求められています。

この巻ではがん研究センターに取材し、専門家の話を聞き、がんを取り巻く社会の状況、海外との比較も交えながら、様々な観点からがんの基礎知識を学びます。また、普段は見ることのできない実際のがん検診の場面も収録し、児童と先生たちのがん検診の必要牲への意識を高めます。(約18分)

②がんを通して《命》を考える



身近な人ががんにかかるときの、あなたはどの人。家族ががんになったとき、あなたはどのような行動をしていくでしょうか。

この巻では小見が主人公とその家族の声を聞き、児童生徒たちに「いのち」についての問いを投げかけます。映像、視覚の後に本テーマについて書き、議論することで、児童生徒たちが「いのち」の大切さを感じ、肯定的、能動的に生きていくための多くのヒントを得ることが出来ます。(約25分)

③ がんと共に生きる社会



近年はがんの診断法が飛躍的に進歩して社会で認識する人が増えてきています。がんは重大な病気ではありますが、必ずしも命を削るわけではございません。2人に1人がかかる現代においては、病状とされているのでなく、病気とされているのでなく、がんは共に生きていく社会であり、そのためには、正しい知識を身につけるだけでなく、病気に対する差別や偏見を払拭していくことがとても重要です。実際にがんと闘っている方々や、がんを克服した方々の声や、がんを克服した方々の生活の様子など、さまざまな当事者の声の耳を届け、そして社会を作るために何かが必要かを考えます。また、がんの予防や、学校・職場・地域でのがんの取組について、そうしたい方々を応援していきます。(18分)

長谷川一男さんのエピソード(5分24秒)



がんと分かったときは、もう頭が真っ白ですね。当時、小学校2年生の息子と幼稚園年長の娘がいたので、子どもにどう伝えればいいのか…。4日間一睡もしなかったのを覚えています。自分が治療に向き合うきっかけとなったのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない。ゼロでないんだっ



たら戦うべきじゃないか。」という言葉。それから、子どもたち、妻のためにも、納得いくまで先生と話し合っ

倉本久恵さんのエピソード(5分03秒)



がんと分かったのは検診でした。とてもショックで、誤ってしまう家族への心配が1番大きかったです。でも、毎日



のようにお見舞いに来てくれた家族の支えと励ましで、治療をがんばることができました。今はパン屋で仕事をしています。毎日朝はすごく早いし、パン屋の仕事はすごく力を使う肉体労働ですが、やっぱり自分がやりたかった仕事に就けて本当に良かったと、毎日充実しています。今、大切にしていることは、家族のためにバランスのよい食事を作って、家族が健康であるように努めることです。今まで心配をかけた分、家族には健康でいてほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っている時がとっても幸せです。健康であれば自分の夢も叶います。バランスのいい食事をして、規則正しい生活をして、毎日過ごしてください。そして、家族を大切にしてください。

- ・小児がんの当事者あるいは小児がんの既往のある児童生徒がいる場合
- ・家族にがん患者がいる児童生徒、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合
- ・クラスにがん患者や、がんの既往のある児童生徒がいる場合

・・・生活習慣が主な原因とならないがんもある、原因のわからない場合もある

・・・このような児童生徒がいるという前提で授業を行う

・・・養護教諭と授業担当者の連携、プライバシーを配慮しながら、授業内容について事前に伝え相談する（むしろ学校全体にがんについての理解が広がってほしいと前向きな報告もある）

○その児童生徒が授業を受けてよかった、こういう授業があったよかったと思える授業を

配慮に関する調査結果より

- まず配慮として、児童生徒の意思を尊重すること、そして保護者への内容の通知の工夫が必要である
- 一方で、学校におけるがん教育について、特に中学校・高等学校においては、教育課程上位置づけも明確であり、また、がんの当事者や経験者にとって不利益になったりするものではないことや、当事者等からも特別な配慮の必要なしとする場合もある
- ただし、学校におけるがん教育が一定のまとまりとして教えられるようになってそれほど時間が経っていないことや、外部講師の指導も多く行われていてより深く学ぶ機会も増えていることから、それぞれの事情に応じて臨機応変にはなるものの、慎重な配慮は必要と考えられる
- がん教育は集団指導が基本になることが多く、それをフォローアップする個別の指導や支援が行われることも有効であり、その際に用いることができる発達段階に応じた資料や教材の開発が必要である

- がんの専門性の高さに鑑みて、広く専門機関等との連携を進める。地域や学校の実情に応じて、学校医をはじめとする医師や看護師、保健師、がん経験者等の外部講師等の参加・協力を推進することが期待されている

・・・教育課程の特徴（保健学習、特別活動、総合的な学習の時間、道徳の時間等）を踏まえる

・・・学校でどこまで学習しているかの把握して行う

・・・学校が年間計画を立てる段階から参画して連携を図る

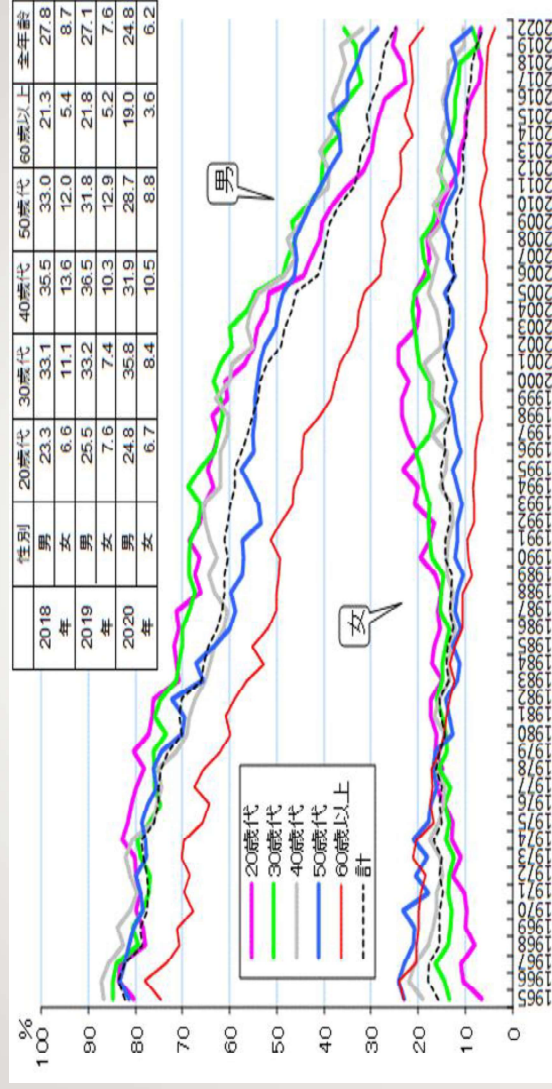
がん検診の意識と行動を変える

ー保健教育の社会貢献の可能性ー

植田誠治他：日本の児童生徒のがんについての意識の実態（2014）より

- がん検診を受けられる年齢になったら受けようと思うと回答した中学生・高校生は7割にみたない
- また、がん検診はどのような人が受けるものだと思うかに対して、健康な人を選択した中学生・高校生は6割程度にとどまっている
- 一方、将来自分がかんになると思うかという問いには、中学生・高校生の1～2割がそう思うと回答したにすぎない

喫煙率の変遷



(注)「全国たばこ喫煙者率調査」は2018年調査をもって終了。2019,2022年は「国民・健康栄養調査」の「現在習慣的に喫煙している者の割合」を使用したので厳密には接続していない。
(資料)日本専売公社・日本たばこ産業株式会社「全国たばこ喫煙者率調査」、厚生労働省「国民健康・栄養調査」

参考文献

- 1) 植田誠治編著, 物部博文・杉崎弘周著『学校におけるがん教育の考え方・進め方』大修館書店, 2018
- 2) 長野県教育委員会:「がん教育の手引き 別冊 ～外部講師を積極的に活用したがん教育～」, 2021
- 3) 植田誠治監修DVD『いのちと向き合うがんを学ぼう』①がんってなんだろう? ②がんを通して《命》を考える ③がんと共に生きる社会)サン・エデュケーション, 2020
- 4) 文部科学省: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編, 東洋館出版社, 2017
- 5) 文部科学省: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編, 東山書房, 2018
- 6) 文部科学省: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編, 東山書房, 2018
- 7) 文部科学省: 中学校・高等学校版 がん教育プログラム補助教材, キャリアリンク, 2021
https://www.mext.go.jp/content/20210310-mxt_kenshoku-100000621_2.pdf
- 8) (公財) 日本学校保健会 児童生徒の健康管理・健康づくり推進委員会:「主体的・対話的で深い学び」を
目指した保健の授業・授業動画
[HTTPS://WWW.GAKKOHOKEN.JP/HEALTH-MANAGEMENT-AND-HEALTH-PROMOTION/](https://www.gakkohoken.jp/health-management-and-health-promotion/)2023
- 9) 文部科学省: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編, 東洋館出版, 2018
- 10) 文部科学省: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編, 東洋館出版, 2018